

第1回神戸市地域公共交通会議 議事要旨

日時 平成19年9月19日(水) 14時00分～15時40分

場所 センタープラザ西館6階8号室

1. 開会

2. 委員紹介 構成員15名、オブザーバー1名 【資料1】

3. 主宰者挨拶(神戸市企画調整局調査室長 樋口 浩一)

4. 議題

(1) 神戸市地域公共交通会議設置要綱について【資料2】

別添資料のとおり、事務局より説明。構成員16名中、15名出席であり、会議の定足数である構成員の過半数を満たしていることを確認。

(2) 会長等の選出

ア. 会長の選出

流通科学大学 森津教授を会長に選出。

イ. 会長の職務代理者の指名について

森津会長が神戸市企画調整局 樋口室長を指名。

(3) 地域公共交通会議傍聴要領の制定について【資料3】

別添資料のとおり、事務局より説明。

(4) 北神地域における公共交通の現状と課題について【資料4】

別添資料のとおり、事務局より説明。

<意見交換>

(構成員)

- ・ 地域の実情に応じた適切な乗合旅客輸送の態様を考える場合、まずは既存の公共交通(鉄道・路線バス・タクシー)を活用できないか検討を行い、どうしても対応できず交通空白となる部分については、運営協議会を設置して協議するという流れが望ましい。

- ・谷上駅から淡河町への輸送については、谷上駅にタクシーの乗り場があるため、タクシーで帰宅時や福祉施設の来訪者の需要に対応できていると思われる。
- ・地域からボランティア運送の提案があった背景やこれまでの経緯を詳しくご説明いただき、必要なデータを提示いただいたうえで、必要性について議論する必要がある。

(事務局)

- ・淡河町内は各集落からバス停まで相当離れており、道幅も狭くバスが走れるような状況ではないこと、また、地域にタクシーの営業所等がないという実情の中で、何とかバス停まで行ける移動手段が確保できないか、県の助成を受けながら地元で町内の福祉有償運送のバスを活用したボランティア運送が検討されてきた。
- ・今回、道路運送法が改正されたことを機に、無理なくそのボランティア運送を続けていくという上でも、実費相当分をいただく「過疎地有償運送」に切り替えることが望ましいということで、通常の乗合運送になじまない自宅近く～バス停までの運送をベースに、通勤・通学者の帰宅支援、福祉施設面会者のための送迎も合わせてできればという地域の思いもあり、今回の提案となった。神戸市としても、地域主体の取り組みを側面的に応援していく形で実現できないかと考えている。

(構成員)

- ・有償で行う場合、登録を受けた淡河町民や福祉施設の来訪者は登録証で担保できるが、その同伴者は登録制ではないため、線引きがあいまいになる可能性がある。

(事務局)

- ・淡河町内から発生する極めて限定されたニーズに対応するものであり、利用者は登録を前提としているので、不特定多数への対応にはなりにくいと考えている。

(構成員)

- ・この地域のバス路線は、要望があって走らせたものの非常に大きな赤字を出している。自宅からバス停までの移動手段については、道路状況から見ても大型バスが迂回することは現実的に難しいが、連絡所等までの移動支援がバスに影響しないか懸念する。
- ・バス路線と重複して連絡所等まで行く場合は、このボランティア有償運送を現行の路線に単純に追加するということではなく、既存の路線も含めて全体の見直しという形の中で検討をしていただきたい。

(構成員)

- ・ どうすれば一人でも多くの住民がバスや電車に乗れるか、という原点から自宅からバス停までの移動手段を地域で検討し、市に相談した。住民としては、既存のバス・タクシーはこれまで通りを基本にお願いしたい。
- ・ 神姫バスの協力により、吉川～三宮行の路線が新設され、吉川発 6 時 30 分、淡河北停留所には 7 時 8 分着のバスができたため、三宮には 8 時までに着け、大阪へは 9 時までに行けるようになった。朝の通勤時に送迎する負担が解消されたとお母さん方から喜ばれているが、できれば夜の時間帯についても増便を再度検討していただきたい。

(構成員)

- ・ 市は、広域幹線バスについては国・県との協調補助で維持することとしており、神戸市分は補助要件を満たす 7 路線となっている。それとは別に、市町単独で維持すべき路線というのを大半の市町が抱えているが、神戸市においてはゼロとなっており、これは神戸市として特に生活交通として維持すべき路線と認定した路線はないということになる。
- ・ 県下の各市町においては、交通空白地や高齢者の外出支援として色々なサービスを行っており、神戸市においてはあくまでも地域でやってもらうということだが、そのところについて行政的な責任というのはどう考えているのか。
- ・ 既存の交通事業者から撤退すると言われたときの交通政策について、市としてどう考えているのか。
- ・ 市交通局の 17 年度の決算書を見ると、市から 18 億円の補助金が出ている。その補助金の一部をそうした地域の交通を支援するメニューの原資にして何か提案できないか、可能であれば検討していただきたい。そういう公共交通の議論を経たうえで、結論として過疎地有償運送という結論になるのであれば特に異論はない。

(事務局)

- ・ 路線バスを需要が少ない地域に走らせるとなると、地域間幹線系統で実施しているような補助が前提となるが、神戸市としては、路線バスよりさらにきめ細かなサービスの部分については、地域主体で検討いただきたいと考えている。また、そうした移動手段に対して、現在の地域間幹線系統にしているような補助は考えていない。
- ・ バスの退出に関する問題については、市としてどう対応していくのか内部で十分に検討

していきたい。

(構成員)

- ・高齢化率は北神地域の4町平均で27%だが、淡河だけを取り上げればもっと高くなっていると思われ、これから介護の問題や予防の問題が出てきて、外出するというのがかなり重要な事柄になると思われる。
- ・こうした地域は車の利用が多いので、「公共交通について住民の声を聞きましょう」といってもなかなか出てこない。いつかは免許返納しなければならないが、皆さんかなり先延ばしにされるという問題が多く、高齢ドライバーが引き起こす交通事故は相当数増えている中で、地域の中から出た声をどう生かしていくかということで、今日の話があらうかと思う。
- ・地域公共交通会議については、過疎地有償運送やコミュニティバスについて協議するのみならず、いずれはタクシーのいい活用方法や、バスの利用促進等も含めて考えていかなければならないと思う。

(構成員)

- ・淡河地区でまちの活性化を議論する中で、ボランティア運送でやってやろうという人がいて、盛り上がってきた公共交通活性化の場だと思う。
- ・最近ではモータリゼーション、1人に1台という中で、高齢者もなかなかやめないで運転しているが、その中で、いかにまちのコミュニティの場に高齢者が出ていけるかというのが、このまちの輸送の活性化になる。それをいかにやっていくかを考える中で、既存バスのダイヤ変更やタクシーの活用、ボランティア運送といった議論になっていくと思われる。確かに、淡河町内に限って今まで歩いていかなければいけなかったところをドア・ツー・ドアでバス停まで運び、後は既存のバス会社に頼むというのが一番の考え方だと思う。

(構成員)

- ・タクシーがあるといっても、例えば、谷上駅でどれだけの台数が確保されていて、動いているのか。その点を整理して理解を得る必要がある。

(事務局)

- ・北神全体の公共交通体系の議論をするとかなり膨大な整理が必要になってくるため、淡河町内に限って議論し、既存の公共交通と過疎地有償運送のすみ分けについて議論ができないかご相談させていただきたい。
- ・町内移動、自宅からバス停までの移動に関しては、従来の公共交通で担うべき範疇外ということで、前に進めていけないかと考えている。

(5) 今後の進め方

- ・再度、地域公共交通会議を開催し、地域から過疎地有償運送の提案があった背景やこれまでの経緯、町内輸送に絞った運行計画の中身を整理・説明するとともに、関係者で過疎地有償運送の必要性を検討することとなった。